

1990年 1月17日(水)～ 2月27日(火)

「縄文土器」作品展

寄贈品コーナー・会期：1月17日～2月27日

体験学習って何だろう？
—土器づくりに参加して—



—縄文人だって作れたのだから私にも出来るという軽い気持ちでしたが、土をこね形をつくっていくうちに、私は自分の軽薄さを恥ました。頭で考えたものに形を与え、まだ世の中にもないものを創り出す苦勞や、用に耐える土器が出来上がるまでの苦心や試行錯誤にまで、思いが至りませんでした。—長い時間を経て、工夫し技術をみがきかさねた縄文人の知恵の重みと素晴らしさに驚ろきました。お影で今までの考え方、とりわけ道具の見方を変える1つの原点に立てたように思います。

—縄文の人たちも私たちのように、煙にむせび顔をほてらせて、生活用品や恋人への贈りものを作ったにちがいないと思いました—以上は、土器づくりに参加した方達のお話からひいたものです。

“百聞は1見にしかず”は、たとえ1目でも見ることの方が、百聞くよりもわかるの諺です。

このお話を伺ったあとでは、見るだけより、手足を動かし実際にやってみることの方が、更によくわかる、というか、わかる質が違うと言った方がいいでしょうか。世の中には、見ればわかるものがある。と同時にやってみなくてはわからないものも、沢山あるのですね。縄文人をうちのお隣りに住む人のように想いやれる気持は、凄くと思います。土器をつくるという体験が、この間にある筈だった1万年という才月を、飛び越えさせたのです。感激しました。

開講時からお世話してきた明石学芸員によると同じものを見て作ったのに、どの作品にも、その人の人柄や性格がにじみ出ているそうです。作業工程はパネル写真で展示してあります。どうぞ、見に来てください。